0

柑芦会　本部　ニュース

第 26 号　2021. 9. 1.

wakayama univ.
国立大学法人
和歌山大学

―そして ここから―

1．寄稿ー①

3　ポ　リ

経済学部　教授・前教務委員長

阿部　秀二郎

忙しく研究時間が不足しているのに、いろいろと負担を増やさないようにと、教務委員長をしていたときに教員の皆さんからよくお叱りを頂戴した。中期目標・中期計画や認証評価で取りこぼしがないように事前に準備をしておく必要があることから、確かに大学・学部の中で「評価」対策のための対策へのご協力を教員の皆さんにお願いしてきた。

それらの対策の中でも、3 ポリと呼ばれる、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受け入れ方針（アカデミック・ポリシー）の整理と社会的な需要を見越したうえでの見直し・実行は、面倒ではあるが継続していく必要があるだろう。皆さんがこれまで支えてきた伝統は、可視化はされてはこなかったかもしれないし、各教員のシラバスなどに一体性を持たせるために何かを書くことなどは要求してこなかったとは思うが、どのような人材を輩出するか、そのためにどのような教育を行うかは、大切なものであることは容易に理解していただけることだろう。

私が専門としている経済学史・思想史では、トーマス・カーライルによる人材像はマーシャルやヴェブレンなどにも影響を与えた「産業の総帥」が一橋大学の人材像として掲げている。そしてマーシャルの言葉で有名な with cool heads but warm heart も多くの旧高商の卒業生の皆さんの動機を駆り立ててきたことであろう。しかし考えるほどに cool head と warm heart の両立は難しそうである。マーシャルのケンブリッジ大学での演説では、warm heart はあるが、cool に観察・分析し、既存の知識を融合させて対策を立てることができる社会主義者や政治家は少ない状況において、これまでの経

済学の不完全性や幼稚性を乗り越えて、学生達に新たな経済学を模索し、適切な政策を展開してほしいという意図を読むことができる。大変高尚な意図であり、養成すべき資質であり、多くの人々を引き付けてきたのも理解できる。しかし、逆に warm heart はどのように獲得できるのであろうか。ディケンズが描くスクルージは老人になってから warm heart を思い出すことができるようになった。人間には heart が warm であるという資質は備わっているものなのであろうか。進化論的な影響を受けているマーシャルらの考え方では、入学前の教育の問題として認識されているようである。

AI 化が待ったなしの状況で、令和 7 年度入試（令和 6 年度末に実施）からは、大学共通試験に情報が追加されることになった。大学・学部としてはこの情報を 3 ポリに加えてことについて考えなければならない。どのような人材を輩出するか、そのための情報教育はどのようにするか、そして教育によって資質を有する人材になるための条件をどのように入口で確認するかである。warm heart を有するための資質、captain になるための資質をマーシャルが現在生きていたならばどのように考えたのであろうか、これからやらなければならない業務は厄介だが、大学が大学であるためにヴェブレンの言う、idle curiosity を以て楽しんで考えてみたいものである。

前 FAO 駐日連絡事務所長ポリコ氏と筆者
（経済学部授業で来学、中は大学院生）

未来の産業の総帥達
（「EC アグリビジネス論」の１コマ、筆者は左）

１．寄稿ー②

柑芦会とのかかわり

三重支部長　井上　俊一（１８期）

１９７０年（昭和４５年）に卒業し地元の地方銀行で働いていたが、１９８３年、銀行の取引先の社長であった梅本　斉氏（故人、高商 19 期）から呼び出しを受けた。

『三重県には卒業生が２００名くらいいるから、そろそろ支部作ろう』とのこと。

そこには私以外に２人の卒業生と藤田善裕先生（故人、和大教育学部名誉教授、在学当時の体育の先生、バレーボール部顧問）がおられた。梅本氏と藤田先生は、「旧制津中学校」（今の三重県立津高校）の同級生とのことだった。

当時、三重県地区は東海支部の中に組み入れられており、独立するには、東海支部の了解を取り付ける必要があった。銀行に就職する際、藤田先生にお力添えをいただいたこともあり、断り切れず、私が独立工作を引き受けることとなった。これが 私の柑芦会とのかかわりの発端である。

その後、三重支部は、１９８４年の創立準備総会、１９８５年の創立総会を経て設立され、私が、幹事長を仰せつかった次第である。当時３９歳という若さだった。

２００４年まで２０年間幹事長を務め、２００５年に副支部長、２０１１年からは支部長を拝命して今日に至るまで、切れ目なくお付き合いしている。令和 3 年度の総会は第３７回目となる。そろそろ後進に譲ろうと考えているところである。

当時、梅本初代支部長は、社業に忙しい方で、本部の会議、他支部総会への出席等は、『お前に任せた』という感じだったので、歴代の本部役員の方々、東海支部役員の方々とは多くの知己を得た。

三重支部設立当初は、我々若い世代が、大先輩を総会にお呼びするだけで総会が成り立っていた。創立総会では２８名、第２回総会では４２名が出席しており、東海支部さんから羨ましがられたと記憶している。

未だに２００名強の会員を擁する支部であるにも関わらず、ここ最近の総会出席者は１０名前後となっており、「支部活性化」が必要とされる支部にまでなり下がってしまったことには、忸怩たる思いがある。

しかし、我々のような「地方の弱小支部の活性化」は、「何千人という会員を擁する支部の活性化」とは全く異なるものであることを提言しておきたい。

「総会出席者数などという尺度で支部の活性化を云々していてはいけない」ことは三重支部と共に歩んできての私の結論であり、反省点でもある。

これからの若者は、「連帯」などというキーワードでは動かないことを肝に銘じるべきであると思う。

現在、大きな支部ではそれぞれホームページを持ち、会員に情報提供されているようですが、弱小支部にはそれだけの情報も無ければそれを収集する人材もいないのである。

「柑芦会会員であれば、どの支部に所属していても、等しく情報提供されるべき」ではないでしょうか。そうだとすれば、「 柑芦会本部と個人との結びつき」が重要になってくると思う。

今後、ネット社会が進行していけば、「距離と時間が増々短縮される時代」となる。

「消費者ニーズの把握がしやすく、より良い商品が提供できるメーカー直販」が進行しているようなことが、 柑芦会活動にも起こってくるのではないかと考えます。そうなれば、「支部総会出席者数が何名で評価する支部の活性化」は方向性に問題があると言わざるを得ない。

以上

２．事務局より

①支部長会開催予定

日時：2021 年 9 月 4 日（土）13：00～15：00

形式：オンライン（Ｚｏｏｍによる）

出席者　柑芦会：会長、各支部長、監事、本部各委員会の委員長

　　和歌山大学：経済学部長

議題：①経済学部創立 100 周年記念事業について

②柑芦会体制強化について　　※各支部の活動報告と意見交換

③課外活動支援金について

④本部委員会からの報告事項等　　支部活性化支援委員会、学生支援委員会

②柑芦会本部新メールアドレスのご案内（再掲）

柑芦会本部メールにトラブルが発生し、従来のメールアドレスが「不通」となりました。皆様に多大なご迷惑をお掛けし申し訳ございませんでした。

この度、新アドレスを設定いたしましたので、アドレス変更頂きたくお願い致します。

◆柑芦会本部アドレス変更　　新アドレス：honbu@kourokai.org

※旧アドレス：honbu@kourokai.com　破棄下さい。

③ご意見募集

読後のご感想や掲載して欲しい記事または筆者あれば事務局までご連絡ください。

（本部　事務局）

****

和歌山大学経済学部同窓会　　柑芦会　本部　事務局

〒540-0012　大阪市中央区谷町 4-4-17　ロイヤルタワー大阪谷町　207 号

Tel：06-6941-4986　Fax：06-6947-7925　E-Mail：honbu@kourokai.org

フェイスブック

****